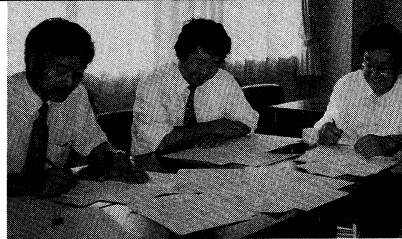


# JIA 長野県クラブ 24

社団法人 日本建築家協会

1996. 10. 1



左上/JIA大会'96札幌(9/5~6)  
上/交流委員会(松本市内 9/17)  
左/総務委員会(長野市内 9/18)



## 建築を通じて社会貢献を!

副代表  
高橋重徳

この度、クラブ副代表にご指名を頂き、その責任の重さを改めて感じております。微力ながら誠心誠意努力を致しますので、皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

最近の社会情勢の変化は大変めまぐるしく、私達建築に携わる者にとっても、いろいろな面からの対応を余儀なくされて来ております。

この様な時期に私達は、会員、賛助会員を問わず、地域の違いを乗り越え、それぞれの立場や考え方を理解し合い、お互いの求める方向をより良くする為に、一層の努力が大切ではないでしょうか。

それにはまず参加し、仲間同士で交流することから始まると思います。そうした活動を通じて少しでも、私達の社会的使命に対する重大性を謙虚に再認識し、同時に一般の方々に私達の活動や、私達の職能をより深く理解して頂く努力を積極的にする必要があります。

私達は、一人で出来ることには限りがあるのです。改めて、皆様と共にJIAに入っていることの意義を考え、そのメリットを十分に生かす努力をしたいものです。



## まずは団地、集落景観から

理事(会計担当)  
久保田三代

現場へ行く途中、車の中でJIAクラブの原稿のことを考えながら景色を見ていると、いつも感じていることですが、メーカー住宅がかなりの勢いで農村地域まで浸透(侵攻)して来ているのに気が付きます。農村は、学校・公会堂などを囲む形で、主に住宅が集落を形成している所がほとんどです。メーカー住宅との共生の景色を考える所に来ています。

- ①白壁、土壁、板貼、急勾配の茅葺き屋根の住まいや大壁造りの土蔵の中に、いきなり(良く言えば)瀟洒(しょうしゃ)に建っているメーカー住宅に困惑を感じます
- ②新しく開かれた住宅団地で、回りをメーカー住宅やメーカー住宅を真似た近代的(流行的)住宅に囲まれ、和風の在来工法の住宅が孤立している様は哀れを感じます

こんな状態は私の身近な所だけではないと思います。景観とか街並みとかを建築から発信していく事が出来るのであれば、まず小さな単位としての団地や集落から始めていく事だと思っています。JIAの中で勉強し、またJIAの力で身近なところから、また、私としては精一杯背伸びした状態での守備範囲ともいえる所ですが、そのあたりから頑張りたいものです。



## 懸案事項の改善に向けて

総務委員長

関 邦 則

当クラブもスタート以来9年程の歳月を経過してその活動方針や事業企画も定着してきた。この間代々の代表や役員諸氏の尽力は並々ならぬものがあったことと思う。しかしまだまだ団体として未整備な部分も残されているようだ。クラブ運営の基礎とも言える日常的な事務処理や決済等についての確認のために事務局の秦さんが一身に労力を磨り減らしていたり、役員の選任等に関わるルールが明朗でなかったりするのはクラブの運営にとっては決して良い状態とは言えないのではないかと思う。これらはほんの一例に過ぎないが、こうした事態の改善に向けて総務委員会が設置された。次のような事業計画案にしたがって検討していきたいと思うのでご意見等をお寄せください。

①定款・諸規定等の整備に関する検討②クラブ運営のための総括的な問題の検討③会費及び地域活動費に関する検討④会員の入退会に関する事項の処理⑤長野県学生卒業設計コンクール事業の展開⑥定常的でない事業の運営検討



## 賛助会員の皆様と共に…

交流委員長

高橋 重徳

賛助会員の皆様には、日頃当クラブに対し多大なご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、旧来の賛助委員会をより発展的に交流委員会として新たに位置付けし、スタートしました。

今まで、とすると、賛助会員の皆様が参加できる場とその存在が、いまひとつははっきりしていなかった様に感じます。

代表は「まず参加して交流を！」という方針でおられます。委員会としては、①技術交流会や見学会の実施②メーカーリストの改訂整備③賛助会員の増強推進等、を図っていきたく思います。また、会報にも賛助会員コーナーを設け積極的に参加頂ける様お願いすることとしました。

賛助会長の坂田さんを始め、皆様のご協力を頂き、賛助会員の期待に応えられる様な魅力ある活動をしていきたいと思ひます。

賛助会員の皆様の一層のご理解、ご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



## Face-To-Faceの付き合いを

会員委員長

松 下 重 雄

今年より新しい委員会構成により、会員委員会を担当することになりましたのでよろしくお願ひ致します。

さて、会員委員会は他の委員会が対外的な役割を持つのに比べ、対内的にクラブメンバーのことを主に考え、活動する委員会です。長野県クラブの会員にとってこの会が楽しいものであり、Face-To-Faceの付き合いがしやすいように“縁の下…”の役割をします。

今までありました「所員委員会」をこれからは包含してこの会員委員会で担当することになりました。当面の事業計画として次のようなものが考えられますが、柔軟に取り組んでいきたいと思ひますのでご協力を！

1. 「本音で語ろう会」の立案と実施
2. 「会員作品展」や、会員向けの「建築見学会」の立案と実施に向けての研究
3. 会員の増強推進と環境づくり



## アーキテクト以外の講演も

事業委員長

上 村 保 弘

文化講演会については、◇第1回「社会にとって建築家とは何か」(建築評論家馬場璋造) ◇第2回「'93 J I A 新人賞受賞記念講演会」(芦原太郎、大野秀敏) ◇第3回第1部/基調講演「罰が当る」(建築家池田武邦) 第2部/「生きつづける建築について考える」(建築家池田武邦、建築家林昭男、コラムニスト山田真美) ◇第4回「'95 J I A 新人賞受賞作品を語る」(片山和俊、團紀彦) —と企画、実施してきた。

第1回の馬場氏を除きアーキテクトによる講演で、どちらかといえばクラブ会員向けの勉強会だったが、第5回、あるいは節目の年には写真家、彫刻家、作家などからみた建築の良さ、楽しさ、社会環境への影響等も企画してみたい。

長野県卒業設計コンクールは、次回からは近県の大学を1、2校増やし、より盛り上げられればと思う。

また、建築家の日は今までは模型展の協力程度でなかなか自分達の日というところまでいっていないが、本年は、私達に何ができるのかなどについて議論していきたい。



## コミュニケーションツールとしての会報

広報委員長

関 邦 則

これまで編集委員会となっていたが、より積極的な活動を期待（強制？）されこのたび広報委員会と改称された。会報はご覧いただいている通り第19号以来誌面を全面的に刷新して年4回の発行になった。会員にとって自らが所属しているクラブの存在をより身近に感じてもらえるものになれば…と考えての見直しだった。すでに5回発行しており、手前味噌になって恐縮だが概ね好意的に見てもらっているようだ。こうした誌面を通して日頃直接会話をすることの少ない会員がお互いに何を考えているのか、どんな設計活動をしているのかを知り得ればクラブに所属している意義を見い出せるのではないかと考えている。事業計画案は以下の通り。

①会報の企画発行②JIA本部・JIA関東甲信越支部への連絡窓口

これまで「各地の仲間から」というコーナーを設置していたが、正会員だけでなく賛助会員も是非加えてほしいという要望もあり、今後の発行の中でスペースをとっていくことを検討していきたいと考えている。



## 「JA」でなく「JIA」

建築家カタログ作成検討特別委員長

倉 橋 英太郎

クラブ会員の作品集といったものをつくれれば地域社会へのアピールになるし、会員各位の啓蒙になると初めて思ったのは平成2年、磯崎新氏設計の湯布院駅でJIA大分の皆さんの「人と作品展」を見学したとき。JIAが美術展しながら地元の皆様にアピール。その姿に感動。松本や長野の駅でも同じような形で建築家、設計監理についてアピールできるのでは、と考えたものです。そのうち、JIAカタログが近畿支部から出版。長野でもクラブ会員のカタログを発刊したらどうかと思った次第です。

ともかく地元の皆様に「JA（農協）」でなく「JIA（建築家協会）」と理解していただくこと。また、JIA大会'96札幌でもありましたように、互いに批判し合い、各自の作品の向上に役立てればと思います。

建築家カタログは3年か5年ごと、定期的に発刊していければいかがなものでしょうか。



## 内輪の勉強会から

まちづくり特別委員長

川 上 恵 一

突然のご指名で新たにできた「まちづくり委員会」の長を押しつけられた？訳ですが、まず皆様に迷惑をおかけするだけで能力のないはみだし委員長であることを認めてもらわねばなりません。一体、建築を生業としている者の集まりが「まちづくり」など中心になってやること自体おこがましいのでありますが、日頃の設計活動の中で私達に出来る事をお手伝いする、またこの会を通して私達の仲間が情報交換し、自らが勉強し少しでも良い方向に行くよう、まず「内輪の勉強」とでもいったところから始められればと思います。私達は確かに建築の専門家ではありますが、同時に私は地域の素敵な住民でありたいと思っています。禅の修業ではありませんが、内に対しては厳しく、外に対しては謙虚に、日頃の実務を通してやっていくということかと思えます。幸いにして当委員会のメンバーには少数にして実績のある精鋭を選出して頂きました。心強い限りです。何か一つでも成果として残すべく努力をしていきたいと思えます。



## 仲間として活躍できる場を

賛助会長

坂 田 守 夫

この度賛助会々長を拝命致しましたが、何分にも浅学非才の身であり、心配ではございますが、何とかまっとう出来ます様に頑張っていく所存です。正会員の先生方と賛助会員の皆様方がお互いに仲間として活躍出来る場面をプロデュースしていけたら最高かと思えます。本音を語れる機会を何回も持ちながら、賛助会の役員の皆様方にも積極的に参加して頂き、よりよい方向を見つけながら、お互い共存共栄が図れるような、今迄とは違った一歩進んだ道を歩める事を目標にしたいと思います。交流委員会の高橋委員長はじめ、委員の先生方には大変面倒をかけるとは思いますが、我々賛助委員会も全力で頑張っていく所存ですので何卒よい方向に導いて頂きたく、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

出澤代表はじめ役員の方にもいろいろな面で、ご指導頂かなければならないと思えます。開かれたクラブになるよう、出澤代表も考えておられると思えます。我々もクラブが益々発展するよう、また全員の皆さんがクラブに入っていてよかったと感じるような、よいクラブ作り一路邁進しようではありませんか。是非皆様方のご協力をお願い申し上げます。

## クラブインサイド

### 7月19日理事会

新井典夫

実質的な出澤丸の船出となる第3回理事会が7月19日松本市のホテルサンルートで開催。代表の「本年度はクラブ組織の見直しをすると共に、建築について語り合い、お互いが刺激し合う機会をつくって、会員及び賛助会員が積極的に参加できる会にしていきたい」との挨拶のあと議事に入り、重点審議事項として委員会構成と委員会の活動内容について検討。提案された組織案は活動の充実を目指す代表の意気込みが感じられるものであり、また役割を明確にすると共に対外的にも配慮した構成であると思う。審議の結果理事全員の賛同を得て7委員会の設置とその活動内容を承認。また委員会とは別に賛助会を構成する件も決定。その他の案件として、入退会者の承認と本年度の理事会開催日等について話し合った。

### 第1回交流委員会

高橋重徳

本年度の交流委員会の活動はどうあるべきかを話し合い、これからの方向付けをするために、出澤代表、関副代表にも加わって頂き、本音を交えた実りあるものとなった。特に新しい体制の意味を委員相互が改めて認識・理解できたと思う。

今後できるだけ委員会の開催を多くすることで、更に深めていけるのではないかと。会員、賛助会員の皆さんが、「より触れ合う機会をつくり、コミュニケーションを持つこと、そして効果的に情報交換できる事が大切である」という意見に一致した。

### 第1回総務委員会

関邦則

新発足の総務委員会を9月18日に建築士会館で開催。委員会としての検討項目はいくつか挙がっていたが、事務処理に関わる懸案事項は早急な改善が必要なため早速審議に入った。まず新入会員への送付書類とそれに関わる規約について見直した。規約は必要に合わせて削除追加を行いたいと思うが、定款や運営規定との関連もあるので今後も更に委員会の中で検討していきたい。学生卒業設計コンクールのあり方についてもより発展的な展望で検討していきたい。

## 新入会員紹介

#### 正会員

吉川一久 諏訪n設計企画 (茅野市)

#### 賛助会員 (メーカー・代理店)

竹村工業(株) (下伊那郡)

プラン21コーポレーション(株) (諏訪郡)

(株)国代耐火工業所名古屋支店 (愛知県瀬戸市)

## クラブアウトサイド

### JIA大会'96札幌 ①

上村保弘

9月5日どしゃぶりの中、千歳空港へ25分遅れで到着。大会会場の札幌市教育文化会館へは40分遅れ。1996年度JIA新人賞の表彰式で、伊藤豊雄審査員が高崎正治氏の「輝北天球館」と石田敏明氏の「NOSハウス」の講評を始めるところ。引き続き宮本忠長氏が第1回日本建築家協会25年賞推薦のお願いをした。

休憩後、大会テーマ曲「そよ風」を作曲した曾山良一氏がギターで生演奏。JIAセッションテーマ「地域会について」では長野県から松下副代表が参加して討論。

レセプションパーティーは京王プラザホテルに場所を移し、穂積会長、来賓の秋本建設省高齢者・障害者建築対策官の挨拶、ケビン・ジョンソンAIAポートランド支部長の乾杯で盛大に始まる。総勢600人。

### JIA大会'96札幌 ②

倉橋英太郎

大会2日目は池澤夏樹氏の記念講演「自然とこころ」。自然への畏敬、生命への愛情、人間への興味、それらへの本質的な思考と感性に裏付けられたお話しは新鮮な感動を呼び起こす。人間の内・外の間的一步の距離をおいて連絡をつけ、双方が呼応と調和を図り、客観性を育てるべき、等の内容。

続いてシンポジウム「自然、こころから建築へ」。京都造形芸術大教授の野田正彰氏は建築家の内部批判・行動について。東京農工大教授の千賀裕太郎氏は、建築に生態学、心理学も加えて考えてほしいと。長谷川逸子氏は建築家の立場から発言した。

エクスカーションは道東へみず設計の皆様と参加。安藤忠雄氏の「水の教会」はもちろんだが、札幌から帯広にかけての大平原、十勝川の夕映えの美しさなど、雄大な自然に感動。我々人間が一番大切にしなければいけないのはこの自然だと再認識した大会だった。

### '96すまいとまちづくりフェア 久保田 三代

県民の住宅及び住環境の改善と住宅関連産業の振興を図ることを目的とした「'96すまいとまちづくりフェア」が、7月19日(金)から21日(日)までの3日間、長野市若里の「ビックハット」において開催された。実行委員会は4月16日JA長野県ビルでの部会を手始めに6月6日、7月8日と回を重ね、その間総務運営部員として参加し、前日は会場準備、期間中3日間は来場者の受付とパンフレットの袋詰めを行った。



JIA長野県クラブ

編集人 関邦則

発行人 出澤 潔

発行所 JIA長野県クラブ  
長野市大字南長野野  
宮東426-1

長野県建築士会館内

TEL 026 (232) 3897

FAX 026 (232) 5303

作成 新建新聞社